

人にも環境にも優しい 企業を目指して

梅村 春男

(米代トラック株式会社 代表取締役社長)



■当社の特色

当社は、1943年（昭和18年）に米代川流域の運送会社3社が、戦時下の国策によって統合してできた会社です。それ以来、地域の顧客の皆様により育てられ、80年近くに渡って運送業を営んできました。

そのような当社の大きな特色は、林業も営んでいることです。半世紀あまり前の1967年（昭和42年）に林業部門を開設し、秋田杉を中心に育林から伐採、販売まで総合的に事業を展開してきました。

21世紀は環境の時代と言われ、社会全体が資源循環型社会の形成を目指す方向に進んでおり、当社も「環境に優しい運送」と「木材の有効活用を考えた素材生産事業」に進進していきたいと考えております。

■ウッドショック

1年ほど前から「ウッドショック」（世界的な木材価格の急騰）が話題になっていますが、幸いなことに当社は林業部門（社内では林業部）がありますので、外材の価格が上がり、国産材の価格も上がるという状況は、プラスに働いています。また、外材から国産材へ切り替えるお客様もおり、それに伴う新たな輸送需要が出てきています。さらに、ここに来て、ロシアからの木材輸入も経済制裁などのため大幅に減少する見通しにあり、国産材への需要はさらに強くなっていくのではないのでしょうか。

当社だけではなく、木材業界にとってもプラスの要素が多いと思われます。このような状況は、能代の木材業界が歩んできた長い苦難の道を考えると、実に感慨深いものがあります。私が当社に入社したときは、能代には大小あわせて二百数十の木材業者がいましたが、長く不景気が続き、今や激減してしまいました。かつては「東洋一の木都」と称されたことを思うと、寂しい限りです。それが、今般のウッドショックによって好景気となり、木材関係業者の間では「100年か50年に1回の好景気」や「第2のバブル」という言葉が出るほどです。

しかしながら、業界の「川上」にあたる山林を有する方々への還元は十分とは言えず、今後の大きな課題となっています。できるだけ早く、山林経営が事業として十分に成り立つようになって欲しいものです。

■人材確保

雇用する側にとって能代は厳しい地域になっていますが、当社の場合は従業員の採用が比較的スムーズに進んでいます。今年の4月1日付では、女性、高校生を含む4名を採用できました。今現在でも1～2名は不足していますが、募集すれば採用できる状況になっています。その要因として大きいのは、これまで給与水準が同業者に比べて高くなるよう取り組んできたことだと思います。

また、最新鋭の車両や機械の導入にも力を入れ、作業の効率化・快適化や安全性・生産性の向上をはかっています。特に、若い人材を確保するためには、こうした機械化などが必須になると思います。代表的なものをいくつか挙げますと、まず、風雨に当たらずに冷暖房完備のキャビン内で安全・快適に作業ができる「キャビン付きクレーン車」があります。次に、ハイビジョンカメラによって作業をモニターし、正確・安全・快適に作業ができる「ハイビジョン搭載トラック」（県内初、国内でも6台目）があります。

さらに、現在、ドローンの導入を進めているところでありまして、上空から森林全体を3次元デジタルデータ化し、立木1本1本の状況を把握・管理することを目指しています。ドローンというハードだけでなく森林を管理するシステムも必要で、トータルでは結構よい値段になりますが、森林管理の効率化・省力化だけでなく、事業拡大のためにも必須のツールであると認識しています。



(キャビン付きクレーン車)



(ハイビジョン搭載トラック)

なお、今年の4月1日現在の従業員の平均年齢は、運送が48歳ぐらい、林業部が40歳ぐらいです。当社の将来を考えると、まだまだ若返りが必要だと感じています。

■林業部

林業部について、少し詳しくご紹介します。

もともと、伐採は木材の運送に付帯した事業でした。その事業を独立させたのが1967年のことです。当時でも、木材主体の運送業者の中で林業部門を持つところはありませんでした。

現在の人員は15名、素材生産量は年間約3万 m^3 です。秋田県全体の素材生産量が年間120万 m^3 前後ですので、当社は大体2.5%を生産していることになります。すべての業務を当社単独ではこなせないため、下請業者とともに取り組んでいます。なお、人員15名のうち、県の林業大学校の出身者が3名います。

作業用機械は全部で19台あり、伐倒、集材、集積などに活用し、作業の効率化や安全性向上をはかっています。また、下刈り（雑草や雑木の刈り取り）にもリモコン操作の機械を新たに導入しました。

作業の機械化はだいぶ進みましたが、植栽（苗木の植付け）は機械化されておらず、業界の大きな課題の一つとなっています。植栽の機械化が進まないと造林コストが高止まりし、伐採後の再生林の割合が低下することにもつながります。山林経営の改善のためにも、機械化が望まれます。

■むすびに

林業は、カーボンニュートラルなど様々な面から、今後は有望な産業になっていくと思います。特に、能代には大手業者の製材工場の進出が決まり、米代川流域から膨大な量の原木を調達することになっており、大きな追い風が吹いています。

こうした中で、当社は林業部門へ従来以上に力を入れ、近い将来、目の前にやってくる大きなビジネスチャンスをも十分に生かしたいと考えています。あわせて、遠い将来も見据え、苗木を植え森林を育てていく造林にも精力的に取り組んでいきたいと思ひます。

会 社 概 要

- | | | |
|----|--------------------|---|
| 1 | 会 社 名 | 米代トラック株式会社 |
| 2 | 代 表 者 | 代表取締役社長 梅村 春男 |
| 3 | 所 在 地 | 〒018-3141 能代市二ツ井町字五千苺47-6 |
| 4 | 電 話 番 号 | 0185-73-4025 |
| 5 | F A X | 0185-73-4028 |
| 6 | U R L | https://yoneshiro.jimdofree.com |
| 7 | 設 立 | 1943年（昭和18年）7月30日 |
| 8 | 資 本 金 | 1,500万円 |
| 9 | 従 業 員 数 | 70名（2022年4月現在） |
| 10 | 事 業 所 ・
事 業 内 容 | ○事業所・事業部
秋田営業所 能代営業所 二ツ井営業所
鷹巣営業所 林業部
○事業内容
一般区域貨物自動車運送業 素材生産事業
産業廃棄物処理業（収集運搬） 解体工事業 |
| 11 | 基 本 理 念 | ○企業組織の夢、地域社会、住民と共存共栄を実行できる企業とする
○社員・荷主を尊重、安全安心を追求し実行する |